



紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

15

香川大学
KAGAWA UNIVERSITY

学ぶこと：思いつくまま 専攻長・武藏博文

6年目の初めに際し、多くの学卒の皆さんをむかえて、若い声にリフレッシュした教職大学院を感じます。皆さんがこれからの日本の教育を開いていくのです。夢のように語られていたことが、皆さんの信念と直観により、形をなしていくことでしょう。今年も新型コロナが続きます。変異株の猛威で、大学も再び遠隔授業となっています。新型コロナに耐える準備を怠らず、しかし、大学院での学びを続けて、自分を信じる勇気を持つようになりましょう。

教育において授業ほど大事なものはありません。かつては、教えてやらせて、なるほどとわかる授業でよかったのです。これからは、一人ひとりに、課題を問い直す、何故を突き詰める、思考の道筋をたどる、自分の好奇心をくすぐることが求められるでしょう。みんな考えるなかで、自分の考えを広げて明らかにし、自分がない考えに関心を持ち、自分が普段考えないことも考える、そして、それらが実現できるか思い巡らすことも必要です。本来、子どもがしていることですが、授業の中での学びとして大事にできるものです。

令和3年度
院生の皆さん
講義室にて

Self-introduction by the new staff

教員挨拶

授業力開発コース

准教授 谷口弓恵



この度、香川県教育委員会との人事交流により着任し、授業力開発コースを担当することとなりました谷口です。私は、香川大学保健体育研究室幼稚園課程の出身で、10年前には、現職として内地留学にも来ております。その香川大学に勤められることになり、大変嬉しく思っております。

これまで、大学を卒業して坂出東部中学校で1年間講師として勤め、その後、高松市立川島小学校で採用されてから、川島小学校で6年間、檀紙小学校で9年間、香南小学校で9年間、仏生山小学校では1年間教諭として勤めた後、3年間教頭として勤めてまいりました。

その間、辛いこともありましたが、その辛さが全て吹き飛ばすような、子どもたちとの嬉しく楽しい関わりもたくさんありました。子どもたちが将来悩んだ時、ふと思い出してもらえるような、そんな先生でありたいと思っています。教職大学院で学ぶ学生の皆さんと、子どもたちが笑顔になり、大人になった時に思い出してもらえるような授業ができるよう、共に学んでいければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

大学院説明会ならびに入試日程のご案内

本年度の大学院説明会は、教育学研究科ホームページにおいて、動画等による紹介とさせていただきます。近日中に公開する予定です。個別の質問等があればフォームを用意しておりますのでご利用ください。入試の詳細につきましては「学生募集要項」でご確認ください。学務係で配布しております。また、ホームページでもご案内しておりますので、ご覧ください。

令和4年度 大学院入試日程

- ▶ A日程 2021年8月28日(土) ◀
- ▶ B日程 2021年11月27日(土) ◀
- ▶ C日程 2022年1月22日(土) ◀

教職大学院フォローアップ・プログラム

本学は現職教員向けに「短期履修学生制度」を設けています。教職経験5年以上で、教育委員会等からの推薦があり、審査によって認められた方は、この制度を利用することで1年間の履修で大学院を修了することができます。修了後には、「学び続ける教員像」を実現するため、「教職大学院フォローアップ・プログラム」を受講します。大学教員が学校を訪問し、勤務校での教育実践や校内研修等をサポートします。このプログラムの成果は、香川県教育委員会主催の「香川の教育づくり発表会」等で発表します。

令和2年度は、令和元年度修了の4期生がフォローアップ・プログラムに取り組みました。新型コロナ感染予防のため、発表会はオンラインで実施しました。年度末には学修の記録が提出され、認定証が渡されました。

以下、フォローアップ・プログラムを終えた修了生の声を紹介します。

高松市立古高松南小学校 教頭 川口千奈理

昨年度のフォローアップ期間では、日本教職大学院協会の発表会に紙面発表させていただく機会を得て、大学院の先生方のご指導のもと、より研究を深めることができました。私の大学での研究は、若年教員研修システムを構築、実施し成果と課題を考察することでした。その中で一番感じたことは、先生方は児童を一番に考えて精一杯仕事をしているということです。誰一人不真面目な人はいない。だから、教職員間の協働性を大切にして支え合い、磨き合えば、みんな資質・能力は伸びるということです。逆に言うと教職員の連携なしでは教職員の資質・能力は伸びないという結論に達し、2年通して行った研究がより確かなものになったと感じています。

現場に復帰して今年で2年目になりました。教頭という立場になり、戸惑うことが多いのですが、大学院で学んだ知識や考え方が役に立っています。本校の課題は何なのか、どのように手立てを行うのか、強みと弱みは何なのか、どのように活用するのか。また、今自分がどのように動けばよいのかなど、大学院に行く前では考えられないことを考えることができます。大学の先生方から学んだことは、私の人生にとって大きな財産となりました。本当にありがとうございました。

観音寺市立大野原小学校 教諭 高木理恵子

短期履修学生制度を活用し、2年目はフォローアップ・プログラムに取り組みました。初めは、現場での職務と研究に同時に取り組めるか、また発表会で発表できる研究となるのか、などと不安でしたが、今は達成感に包まれています。

研究の目的は、児童自身が自己の学びを自覚し、自己調整しながら主体的な学びを展開できる授業デザインを構築することでした。年度当初、前年度の県学習状況調査の結果を分析することから始めました。OPPA(One Page Portfolio Assessment)に関する先行研究を基に、算数学習の足跡表(振り返りカード)を作成し、6年生の「円の面積」と「比とその利用」の2つの単元で実践を行い、児童の表現物やアンケート結果から効果を検証しました。日常の児童への指導が理論を基に実践でき、児童の成長を実感できたからこそ、達成感を感じることができたのだと思います。4月から大学院の先生がサポートしてくださったおかげです。

また、このフォローアップは理論と実践の融合となり、いい経験となりました。今年度は実践レポートにも挑戦しました。これからも学び続けていきたいです。ご指導いただいた先生方、ありがとうございました。

さぬき市立寒川小学校 教諭 荒木小百合

フォローアップ・プログラムでは、大学院の先生に実際に学校に来ていただいたり、メールやオンラインミーティングで相談にのっていただいたりしながら、現任校の実態に応じたご指導・ご助言を受けて、2年目の実践研究を深めることができました。

引き続き今年度も、大学院での学びを現場に還元し、子どもたちや先生方を支えることが少しでもできればという思いで、特別支援教育コーディネーターとして学校全体を見て、在学時から取り組んでいる校内支援体制の整備をさらに進めています。今でも、大学院でつながったご縁をいろいろな場で感じるがありますし、大学院の先生はいつでも相談にのってくださるので、大変心強く思っています。